

世界文化遺産富士山探訪バス旅

—富士講の原点を探る—

2017 09-10 記 池田 衛

■実施日：2017年9月7日（木） ■参加者：25名（ご家族、他サークル8名を含む）

2013（平成45）年7月、地元所沢の荒幡富士から始めた富士塚巡りは今日まで埼玉・東京地区15カ所の富士塚巡りを行いました。今年で8回目の富士塚巡りは、7月1日の富士山山開きに併せて特別な行事が行われる十条富士と池袋富士を予定しましたが、降雨のため中止となりました。

打ち止めを予定した8回目の富士塚巡りは実現できませんでしたが、富士講の原点を探るバス旅は、会員のご家族や他サークルの方達の協力で参加者を充足でき、無事目的を果すことができました。

■車中で富士山文化遺産案内：

7時55分予定を早めて小手指駅南口を出発。談合坂で15分のトイレ休憩。談合坂を出発したバスの車中で用意した7ページのテキストで富士山文化遺産案内を行いました。

1. 世界遺産とは 2. 世界遺産条約誕生のきっかけ 3. 世界遺産登録までの流れ 4. 現在日本の世界遺産 5. 「富士山」はなぜ「自然遺産」ではないの？ 7. 富士山文化遺産のあらまし

およそ30分の解説が終わるころ御師 旧戸川家住宅に到着した。

■御師 旧戸川家住宅：

御師とは、信仰のために登山する人たちを家に泊めたり、富士山信仰の教えを広めることをしている人達です。戸川家の母屋は明和5（1768）年に建てられました。母屋の奥には万延元年（1860）頃に、廊下を介して裏座敷が建てられました。

原寅夫さんの案内で見学しました。裏座敷の御神前での解説は、特に時間をかけて説明されました。戸川家は、富士山文化遺産の構成資産となっている住宅です。



■北口本宮富士浅間神社：

北口本宮富士浅間神社は富士山の構成資産となっている八つの浅間神社のひとつです。当神社は、特別名勝施設・史跡・重要文化財（本殿・西宮本殿東宮本殿）となっています。

登山する人は、この神社にお参りして、神社の後ろにある登山門から富士吉田登山道を歩いて山頂を目指しました。私たちは本殿参拝後ほんの数歩、富士吉田登山道を歩いてみました。



■ほうとう不動 東恋路店：

富士吉田地区には、ほうとう不動の店舗は数軒ありますが、ユニークな外観の東恋路店が一番人気です。建築家の保坂猛氏の設計で、世界の多数の建築賞を受賞しています。室内は大空間で300席あります。ほうとうの味はいかがでしたか？

レシピは白菜、人参、大根、里芋、玉ねぎ、カボチャ、油あげ、なめこ。仕上げにごま油を少々使っています。ほうとうのかなめカボチャは、きっちり2個ずつ入っていました。



■忍野八海：

忍野八海（湧池、出口池、お釜池、濁池、鏡池、菖蒲池、底抜池、銚子池）は、富士山の伏流水に水源を発する湧水池です。富士信仰の古跡霊場や富士道者の禊の場の歴史や伝説、富士山域を背景とした風致の優れた水景を保有する「忍野八海」は、世界遺産富士山の構成資産の一部として認定されています。

八カ所の湧水池のうち出口池は離れているので、通常の観光は7つの池を巡ります。その中で、バックに富士山を展望できる底抜池は「はんのき資料館」（有料）に入場しなければ見学できません。

それにしても観光客のおよそ半数が、中国系と思われる家族連れであることに驚かされました。

■ふじさんミュージアム：

富士吉田市歴史民俗博物館は、富士山が世界遺産になったことで、富士山の魅力を余すことなく伝えられるミュージアムとして平成15(2013)年4月にリニューアルされました。文化遺産にふさわしく「富士信仰」に関する資料展示をメインに改装されました。プロジェクトマッピングや映像・グラフィックスで富士山を楽しく、そして大迫力で紹介しています。

館内ガイドをお願いした所沢で暮らしたことがある高橋三奈さんの懇切丁寧な説明で、富士山信仰の起源と変遷や歴史の収蔵品で富士山の歴史を身近に感じさせて頂きました。



入口の歓迎表示



ガイドの高橋さん



吉田の火祭り大松明（左写真）と神輿

■道の駅 富士吉田：

道の駅の敷地内には物産館、富士山レーダードーム館や軽食コーナー、地ビール&レストラン「ふじやまビール」などの施設があります。物産館で地元産の野菜を仕入れるなどして帰途に就きました。途中、談合坂でトイレ休憩を取り、予定した時間より30分早い17時30分に小手指駅南口に到着しました。

担当：池田 衛・大山 豊